

さとしょろ

議会だより

No.95
2019.1.31

岡山県 里庄町議会

- 補正予算は全て全会一致 (3)
- 条例制定「緑地面積率が緩和」 (5)
- 請願1件を採択、国へ意見書を提出 (7)
- 町政を問う！ (5人が登壇) (10)
- シリウス “地域の子どもたち” (東平井子供会) (16)

初日の出直前

12月

定例会

平成30年第6回定例会は、12月3日から7日までの会期で行われました。議案は平成30年度の補正予算7件、条例の制定1件、廃止1件、一部改正1件、人事案件2件、事務組合の解散1件、解散に伴う財産処分1件、請願1件、陳情1件、発議1件が上程されました。

主な事業

障がい福祉サービス

1652万円

サービスの増加、対象者の増加に伴ったものです。

災害等廃棄物処理

費用

162万円

7月豪雨に伴い、被災者宅から発生した、廃棄物を処理するための費用補助です。

ブロック塀耐震補強

140万円

全小・中学校のブロック塀点検に基づき、不良個所の補強を行うもので、財源は、町債を充てます。

障がい児通所

サービス

500万円

未就学児の対象者が、5名増加の、26名が対象となります。

合併処理浄化槽

設置助成

290万円

設置申請者の増加に伴うものです。

奥迫池は線越し

1300万円

古井地区の奥迫池の補修工事分で、年度内の補修完了が見込めないのが線越となりました。



成人式 恩師と談笑

補正予算7議案は すべて



にっこり新成人

12月補正の結果

会計名	補正後の金額	(補正額)
一般会計	45億1491万円	(2370万円)
国民健康保険特別	13億3575万円	(△17万円)
介護保険特別	10億4248万円	(△59万円)
後期高齢者医療特別	1億6077万円	(△347万円)
町営墓地特別会計	476万円	(27万円)
水道事業会計		
収益的支出	2億6001万円	(3万円)
資本的支出	1億2596万円	(36万円)
公共下水道事業会計		
収益的収入	3億5599万円	(2万円)
収益的支出	3億2176万円	(2万円)
資本的収入	3億6521万円	(6万円)
資本的支出	5億2227万円	(6万円)

平成30年12月5日の本会議で予算決算委員会に付託された平成30年度補正予算7議案は、同日、委員会を開催して関係当局の説明を求め慎重に審査しました。

平成30年度補正予算は、すべて全会一致で原案可決となりました。

予算決算委員会

質 擬

▼ 繰り越しの理由は

▼ 訓練等給付費が増えた理由

一般会計補正予算について2人、条例制定について1人が質疑を行いました。

一般会計補正予算

繰り越しの理由は

仁科英議員 ①農林水産施設災害復旧費1300万円が繰り越しの内訳と理由は。
②来年の雨の時期までにはやってもらいたいが、奥迫池の工事完了見込みは。

と知っているが、4月か5月ぐらいの検査になると考えている。

農林建設課長 ①奥迫池の復旧事業が国庫補助対象となり、災害査定が10月になったことで、翌年度にまたがる工期となった1件分の金額。
②町としては、年度内に

訓練等給付費が増えた理由は

高田議員 ①災害等の予算で、財政調整基金540万円繰り入れになり、

開発基金の積み立て760万円が減額。この説明を。

②介護給付、訓練等給付費が1500万円増えているのはなぜか。

総務課長 ①災害復旧のために開発基金の積立金を760万6000円減額し、かつ財政調整基金から541万7000円繰り入れ、財源を確保。

健康福祉課長 ②障がい者の状態が変わり、障害区分が変更し、利用日数

が増加した。

また介護者や居住等の変化により施設系サービスの利用者数も増加したことが要因。
サービス自体の変更はない。

町工場立地法準則条例の制定

町民からの意見はない

仁科英議員 ①この制度の経緯を尋ねる。

②制度が60年間続き、町はどうなっているか。

③町には対象工場がいくつあり、それぞれ、どういう率なのか。

④提案理由で、増築を伴わない改築や設備の更新、製造設備の更新、耐震化を促進するところがあるが、どういう意味なのか。

⑤条例案の4条は、どういう意味か。
⑥パブリックコメントは、

企業5社のみで、町民からの意見はない。みんなに理解してもらっていると見えるのか。

⑦制定した笠岡、浅口、井原市の地域準則条例の内容は。

⑧第4種区域に分類したと書いているが、その解釈をたずねる。

企画商工課長 ①国の法整備の経緯の詳細は説明できない。特定工場に対する規制は地域の実情を踏まえた枠組みづくりが

- 重要であるという視点に立った政策展開が今日の主流。
- ② 環境悪化もなく、安定的な企業立地が進んできたと考える。
 - ③ 該当する特定工場は11社、13工場。率の詳細の答弁は差し控える。
 - ④ 昭和49年以前の既存工場の改築は条例の数式の計算の見直しがある。また、コストのかかる耐震化を条件の良い地への移転を防止し、町内で促進する効果がある。
 - ⑤ 緑地面積に入れることが出来る重複緑地の上限を25%から50%に上げた説明。
 - ⑥ 今回も実施要項に基づいて適正に行った。また、正当な周知も行えたと認識している。
 - ⑦ 近隣市の条例を詳細に述べることはできないが、都市計画法上の未線引き区域で用途区分のない区域は里庄町と同じ扱い。
 - ⑧ 本町は、全域が都市計画法における非線引き地



みんなが主役(かすみ保育園)

域で用途指定のない区域。そして従来から住民生活と製造業等の調和が図られた経緯を踏まえ4種地域と判断。

町長 ⑧ 全ての企業が下限の5%にしななければならぬ状況でない。また、近隣住民への環境的配慮もしっかりしてもらえるものと考えているし、指導もする。

ここが賛成！

見送れば不利

眞野博文議員

環境負荷を軽減した機械等の開発、導入が進み、企業の環境や社会的責任の考え方も成熟している。

企業立地法以外で、良好な住環境を維持するためのさまざまな制限があり、緩和による無秩序な建設や操業はできない。

環境も大規模な工業地帯がある都市部とは異なる。

制限を見送れば、企業誘致は不利。町内企業の町外転出も心配しなければならない。

ここが反対！

性急すぎる

仁科英磨議員

第4条の書き方が十分でなく疑問がある。

パブリックコメントは形式ばかりで町民の意思を正しく反映してるとは言えない。

今直ちにこの条例案の全町一律に5%という結論を出すのは性急すぎる。専門家も交え、企業関係者、行政、住民で情報交換と意見交換をし、もっと時間をかけて議論を重ねて結論を出したらいい。

町条例

制定

町工場立地法準則条例
工場敷地内の土地使用制限を次のように緩和します。

	旧	新
緑地面積率	20%	5%
環境施設面積率	25%	10%
重複緑地参入率	25%以内	50%以内

一部改正

里庄町職員の給与に関する条例
人事院勧告による国の改正を踏まえ、町職員の給与に関する条例を改正しました。

廃止

農業共済条例

県内の農業共済組合等が、4月1日から1組合化されることにより、「井笠地区農業共済事務組合」が解散します。そのため構成市町の条例が廃止されました。

既存工場の増改築や設備更新、耐震化を促進することで町外移転を防止するとともに新規の工場誘致を促進するためです。
※昭和49年6月28日以前の既存工場は、別途規定があります。

人事

人権擁護委員

里庄町大字里見

馬場 辰巳氏

里庄町大字里見

佐藤千恵子氏



いただきま〜す

賛否表

○…賛成 ×…反対 退…退席 欠…欠席

議案名	議員名									議決結果	
		高田卓司	岡本雅道	岡村咲津紀	小野光三	眞野博文	仁科英磨	小野光章	仁科千鶴子		佐藤耕三
議案第70号	里庄町工場立地法準則条例の制定	○	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
議案第71号	里庄町職員の給与に関する条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第72号	農業共済条例の廃止	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第73号	平成30年度里庄町一般会計補正予算(第5号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第74号	平成30年度里庄町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第75号	平成30年度里庄町介護保険特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第76号	平成30年度里庄町後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第77号	平成30年度里庄町営墓地特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第78号	平成30年度里庄町水道事業会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第79号	平成30年度里庄町公共下水道事業会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第80号	井笠地区農業共済事務組合の解散	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第81号	井笠地区農業共済事務組合の解散に伴う財産処分	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第82号	人権擁護委員候補者の推薦	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同意
議案第83号	人権擁護委員候補者の推薦	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同意
請願第1号	「障害者自立支援法による自立支援医療費助成及び精神障害者を重度心身障害者医療費助成制度の対象者に加えることを求める」意見書採択を求める請願	○	○	○	○	○	○	○	○	○	採択
陳情第3号	種子法廃止に伴い岡山県の取り組みが後退しないように岡山県条例の制定を求める要請書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続審査
発議第3号	障害者自立支援法による自立支援医療費助成及び精神障害者を重度心身障害者医療費助成制度の対象者に加えることを求める意見書案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決

注)議長は採決に加わりません。(賛否が同数の場合を除く。)

一 請 願

「障害者自立支援法による自立支援医療費助成及び精神障害者を重度心身障害者医療費助成制度の対象者に加えることを求める請願」は採択

審査結果(建設福祉委員会)

付託された請願書は、12月3日の委員会において慎重に審査を行った結果、全会一致で採択すべきと決しました。

本会議議決結果

12月7日の本会議において、全会一致で採択し、国への意見書を可決しました。

発 議

国に意見書を提出

精神障害者が、身体・知的障害者と同じように地域で安心して暮らせるように、三障害の格差をなくし、生活の安定のために制度の充実に努めるよう要望する。

①障害者自立支援法による精神科医療費助成の改善

通院では1割負担、入院は3割負担。病気の特徴から社会復帰がかなわず、就職がままならず、収入が少ないので入院の3割負担は大

きな問題であり生活を圧迫している。

②精神障害者を重度心身障害者医療費助成制度の対象者に加える。

精神障害者が内科や外科などを受診した医療費は、3割負担。身体・知的障害者は原則1割負担であり、制度上の差があり負担である。

2018年12月7日

里庄町議会

一 陳 情

「種子法廃止に伴い岡山県の取り組みが後退しないように岡山県条例の制定を求める要請書」は継続審査

審査結果(建設福祉委員会)

付託された請願書は、12月3日の委員会において慎重に審査を行った結果、民間企業がした時どうなるか判断しかねる。県内の動向も参考にして検討したい。との意見があり、全会一致で継続審査すべきと決しました。

本会議議決結果

12月7日の本会議において、全会一致で継続審査すべきと決しました。

研修・視察



常任委員会

1月15日、総務文教委員会と建設福祉委員会と合同で、視察研修を行いました。

〈滋賀県大津市議会〉

研修先の滋賀県大津市議会は、地方議会としては初めて「業務継続計画」を策定した議会です。この「業務継続計画」は、大規模災害に備えて議会として、議員としての行動基準を定めることにより、非常時においても議会の機能維持を図ることを目的としています。

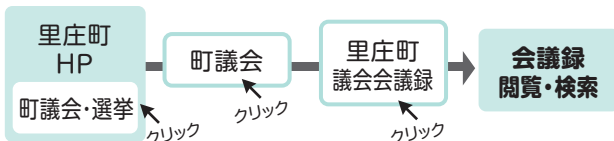
研修では、計画策定の経緯や実際に発動してどうだったかなどの説明があり、個々の質疑に丁寧に答えてもらいました。



大津市議会は、このほかにも「議会基本条例」や「がん対策基本条例」などを制定するなど、政策立案機能の強化にも力を入れています。また、大学と「パートナーシップ協定」を結んだり、議会のICT化に取り組むなどして、とても刺激的な研修となりました。

議会会議録は里庄町の
ホームページからご覧になれます。

<http://www.gijiroku.net/town.satosh/>



傍聴に来ませんか

本会議は一般に公開され、どなたでも傍聴できます。

自分の選んだ議員の活動や町の方針、考えを知ることができる場です。

詳しくは、議会事務局までお問合せください。

新年の挨拶



里庄町議会議長

平野 敏弘

平成31年の新しい年が明けました。町民の皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新春を迎えられたことと、心からお喜び申し上げます。

また、日頃より町議会に対し温かいご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年、大阪府北部地震、北海道胆振東部地震、西日本豪雨など全国で自然災害が発生しました。7月豪雨では、里庄町でも被害を受け、今もその傷跡が残っており、一日も早い復旧復興に町議会としても引き続き取り組んでまいります。

また、本町の財政状況は、ここ数年基金を取り崩す厳しい予算編成が続いています。こういった厳しい状況だからこそ、みんなの笑顔があふれる町を目指して、私たち町議会議員一同は、真に必要なもの、必要でないものを見極めながら、町民福祉の向上はもとより、町民目線による適正な行政運営がなされるよう、行政との十分な議論を尽くして、議決機関としての役割と責任を果たしてまいります。

そして、議員一同、これまで以上に民意を反映させるべく、なお一層の

努力を重ねてまいります。今後ともご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、本年は平成から新しい年号に変わる年であり、新しい年が皆様にとって、夢と希望に満ちた素晴らしい年となりますことを心より祈念申し上げます。年頭のごあいさつといたします。



後列左から 小野光三 仁科英磨 岡村咲津紀 仁科千鶴子 眞野博文 佐藤耕三
前列左から 岡本雅道 高田卓司 平野敏弘 小野光章

5人の議員が登壇して質問!

高田 卓司 議員.....11P

- ① 役場周辺の駐車場確保のその後

岡村 咲津紀 議員.....12P

- ① 地域での支え合いの推進
- ② ヘルプカード

小野 光章 議員.....13P

- ① 役場周辺の駐車場の確保
- ② 交通事故防止の対応
- ③ 朝食の給食

佐藤 耕三 議員.....14P

- ① 会計年度任用職員
- ② 入学準備金
- ③ 防災に対する意識

仁科 英磨 議員.....15P

- ① 7月豪雨災害
- ② 小中学校教育の充実

※一般質問の原稿は質問者が作成しています。



がんばってま〜す(かすみ保育園)

12月定例会

一般 質問

町政を問う

高田 卓司 議員



役場周辺に駐車場の確保を

町長／状況を見て進める

問

役場周辺には人の集まる施設が

数多くあるが駐車場が極めて少ない。特にフロイデのイベント、文化祭のときは問題であり違法駐車も多く発生している。

① 昨年6月議会で大内町長は、適地があれば聞きたい、職員の駐車場の料金負担は考えても良いとの答弁があったが、その後適地を言明したが「お金がかかる」の一言で答弁はウソだった。

このことについて町長はどう考えるか。

② 建物と駐車場は一体で考えなければ建物の機能が十分に果たせない。

しかし里庄は駐車場が少なすぎると思うが。

(地図で示し4カ所提言)
③ 今なら役場周辺に幾らか空き地があるが開発業者が入る前、今のうちに確保してはどうか。

④ 何を聞いてもお金がない。財源がないと言うが本当に財源状況は非常に厳しい状況にある。しか

し必要なことはやらなければならぬ。

何十年も前に国からもらった「ふるさと創生」の一億円を使う目的のな

いまま「いきいき里庄基金」として積立てているが、この際里庄町発展のため使ったかどうか。

⑤ 建物には駐車場が必要不可欠であり、町の発展にはぜひ必要である。

町長は以前確保できる所があるかどうか具体的にわからない。費用も必要になつてくるという答弁であったが今示したところ

でわかったと思う。工事費もやり方次第で安価な方法があるが。

⑥ 開発業者が入る前に急いで対応するべきが駐車場の確保だと感じている。

これを進めるかどうかは町長の考え一つである。その判断を的確に早くしてほしいが。

町長

① 大内町長はこの議会の場でもその後も真剣に答え、考

えたと思う。

議員がどのような場所を示したかはわからないがその時点では現実的でないと感じたと思う。

② 歴代の町長は駐車場についてはいろいろな場所を有効利用すれば余計な経費をかけることなく活用できると考え建設したと思う。

③ 議員が示したところは当然確認はしている。土地を購入し、地盤改良し駐車場にするとなれば多額の費用が必要。

④ この基金を取り崩してこれをやろうという事業は現在のところ考えていない。駐車場確保の財源にふるさと創生基金を活用し、駐車場確保は考えていない。

⑤ 直ちに5〜600台の駐車枠を確保するのは困難と考える。

財源についても、今基金を取り崩す必要があるかなと感じている。

駐車場が直ちに町の発展に大きく資するかどうか

かすぐ判断できかねる。

⑥ 大きなイベントの時は不足している。何とか解消できたらいいと考えている。

平均的に見て住民ニーズに対して余りにも不足しているようならば少しずつでも解消する必要があると考える。

総務課長

② いろんなイベントの時はJAの駐車場、図書館の横の町有地、つばきの丘運動公園の駐車場からバス輸送などで工夫している。又立体的な駐車場にすれば倍近く確保できるが財源状況を考えると難しい。



混雑する駐車場

高齢者の生活支援は

健康福祉課長／支援サポーターが訪問

問

3月末で里庄町の65歳以上の高齢者は3334人、その中で要介護の認定者が627人を超え、高齢化率は29・81%となつている。地域で暮らす高齢者が自分らしく生き生きと生活していくためには、社会の体制づくりが必要。生活支援や介護予防の観点から、生活支援体制整備事業の推進が求められている。

町は計画があるのか。

健康福祉課長

認知症サポーター養成講座を修了し、地域包括支援センターに自主的に登録をし、「地域支援サポーター」として独居高齢者や高齢者のみの世帯の訪問、サロンの運営や声かけ、誘い出しなどを行っている。養成講座を修了し、シルバー人材センターに会員登録をし、「生活支援サポーター」として買い物や掃除、洗濯物を畳んで収納することや新聞を束ねることを行っている。高齢者の増加に伴い今後、登録者の不足が予測されるので登録者確保に努める。

町の包括支援センターでは、独居高齢者や高齢

者のみの世帯の訪問を行っているが、日常の変化に気づくことには限界がある。

町長

移動支援は、必要有効事業と考える。

町でも今後、可能かどうか調査研究をしていく。



ヘルプカード



岡村咲津紀 議員

ヘルプカードの推進は

健康福祉課長／認知度は低い

問

平成29年度からヘルプマークを導入している。「あなたの支援が必要です」と、意思表示が表現できるものであり、勧めていくことが大事である。

ヘルプカードを役に立つものにするには、健常者の理解と協力が必要不可欠であるが町の取り組みは。

健康福祉課長

ヘルプマーク・ヘルプカードは、義足や人工関節を使用している方、内部障害や聴覚障害のある方、また難病のある方、また妊娠初期の方など外見からわかりにくい方へ配慮や援助を得やすくするためのものである。

普及啓発は健康まつりや広報紙、ポスター掲示、また社会福祉協議会の協力により各種団体の総会、研修会で行っている。認知度はまだまだ低く、

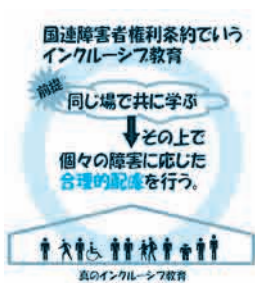
普及啓発活動は必要と考えている。

今後も障害者3団体と連携を図り、広報媒体や各種団体の総会、研修会などで普及啓発に努めていきたい。

町長

ヘルプカード・ヘルプマークの普及促進に向けて障害者が、社会の中において当たり前というノーマライゼーションの考え方を進めていく上でも、小・中学校におけるインクルーシブ教育の中でもそのような取り組みを進めていきたい。

子どもから大人まで全ての人が住みやすい社会の実現に向けて障害者理解を深めていく必要がある。



小野 光章 議員



路上駐車が多い危険

総務課長／町民に意識してもらう

問

役場周辺の駐車場確保について尋ねる。

- ① 駐車場確保に向けて明るい光は見えているか。
- ② ビッグイベント時路上駐車が多く、通行に危険を感じる。状況は把握しているか。どのような対応を考えているか。
- ③ 今までの広報活動だけでは治っていないのが実態。今以上に前向きな危険防止のための施策は。

総務課長

① 鋭意努力し、来年度予算に計上といった形で進められたらと考えている。

② 警備員を配置、交通指導員の方にも世話になっている。イベント前から広報活動を通して徹底を続ける。

③ 駐車をしないように、三角コーンを出す。町民の方に、意識してもらおうしかない。

事故防止策を

農林建設課長／優先道路を

はつきりさせる

問

私は、交通事故は、運転者みずからが安全を守って、交通ルールを守るという自覚があれば、防げる。と思っている。しかし人間は100%の行動はできない。

町道里見229号線の西内食品南側交差点では交通事故が後を絶たない。町民も「危険だ」と指摘する場所である。

- ① 執行部はどう考えているか。
- ② 感應式の信号機なら対応できないか。検討したか。大きな事故が発生しないよう、対策を考えて欲しい。

農林建設課長

① 信号機の設置は現時点で難しい。このため安全対策として、交差点内に注意喚

問

起のカラー舗装を施工し、交差点中央に交差点旗や、ラバーポールなどの車線分離標、デリネータなどの視線誘導標を設定している。

② 信号機が全然ゼロというわけではない。

どちらの道路が優先なのかを、はつきりさせるための施策を実施したい。

① 毎月2回、交

企画商工課長

① 毎月2回、交、朝の通学見守り活動を実施。歩行者や自転車への交通安全誘導を実施。幼稚園児に対する交通安全教育、中学生等への夜行たすきの配付、春、秋の交通安全運動など実施している。

交通事故多発箇所について把握、町民への啓発活動を、今まで通り実施。

朝食給食を

教委事務局長／アンケートを

実施している

問

朝食を摂らないで登校する児童に対して、朝食の給食が出たという学校がある。朝食を摂らないで登校する子供がどのくらいいるか、把握しているか。今後も、動向を調査し、それなりに対応をするように。

教委事務局長

小・中学校とも朝食についてアンケートや基本的な生活習慣のアンケートを実施している。

小・中学生合わせて約18人ほど食べないと回答している。



西内食品南交差点

調整弁にならないのか

総務課長／調整弁になることはない

問

①会計年度任用職員の制度が導入され影響を受ける職員数は。

賃金や福利厚生はどうなるのか。仕事の調整弁にならないのか。
②希望する職員は選考で正規採用する考えは。

教育長

①非正規の職員78人。福利厚生、

期末手当の支給等が明確になり、調整弁になることとはないと考えている。
②定数の問題があるためできない。



役場 1階窓口

入学前の3月支給を

教委事務局長／前向きに検討していきたい

問

①入学準備金を入学前に支給している自治体が増えている。入学前に支給することでデメリット・リスクはあるのか。

②浅口市でも、今年度からは4月に支給され来年からは3月には支給される。里庄も入学前の3月支給を願うが、答弁を。

教委事務局長

①その家庭にとつてメリットはあると思うが、デメリットは、現状調査する範囲では聞いていない。
②今後、援助が必要な生徒の保護者に対し、適切に実施できる時期を前向きに検討していきたい。



佐藤 耕三 議員

問

①豪雨被害の復旧作業が人手不足で思いどおりに進んでいない現状を、どう思うか。

②防災士同士の連携のためにも、もっと勉強会や交流の場を設けては。
③個人所有のブロック塀の修理を国の交付金を活用して進めてはどうか。
④これからのまちづくり

について、3月の時点と災害を経験した今で変わった点はないか。

町長

①一日も早く復旧工事が完了するように一生懸命取り組んでいきたい。

④災害復旧の迅速化や災害予防、情報伝達手段の確立も重要しつかりやっつけていかなければならないと感じる。あわせて、町の発展に資する基盤整備、社会資本整備にも力強く取り組んでいく必要があると考えている。

総務課長

②一斉に集まる講演会、講習会等を開催し、防災士の組織が活性化し、災害時に力が出せるよう進めていきたい。

農林建設課長

③現時点では、効果促進事業としての制度。

今後基幹事業として認められ、県内の動向を見ながら対応していきたい。

災害経験後、変わった点は

町長／災害予防合わせ基盤整備に取り組む

仁科 英磨 議員



災害義援金の配分

予算に入れ、議会と一緒に良い案を

町長／できるだけ早く届けたい

問

7月豪雨災害について、続きを問う。

- ① 最終の被害状況は。
- ② 災害義援金が県から519万円来ています。その他に単独分があるか。
- ③ 収入、支出はどうだったか、配分はどうしたか。
- ④ 県が市町村に配分するのは、市町村は実情に合わせて配分していいという趣旨と聞く。
- ⑤ 被災証明に配分しなかったのは、一部切り捨てたのは、どういう考えか。
- ⑥ 議会への協議、報告等が一切ないのはなぜか。
- ⑦ 一切の収入、支出は全て予算に編入しなければならぬと定めている自治法に違反しないか。
- ⑧ 予算に入れて、議会と一緒に議論しては。
- ⑨ 全国からもらったものを公平に分配するには、皆が知恵を出して良い案を作ることが必要。
- ⑩ 避難情報発令の基準や仕方、伝達方法で、変わったことがあるか。

⑦ 防災行政無線の導入を含め、新しい伝達システムの構築は、どういう方向で研究中なのか。

今どういう作業をしているのか。

⑧ 役場にある雨量計や災対本部に入った情報の主なことは、時々刻々リアルタイムで流せないか。

⑨ 高岡及び屋中は鴨方町の避難施設も使えるようにするために、浅口市との協定が進んでいない。

なぜか。

⑩ 高齢者、障害のある方への対応のための個別計画はどうなっているか。

⑪ 天草池運動公園横の水路は、大雨が降るたびに溢れ、脇の道路は通行不能になっている。

⑫ 湯ノ池の余水吐の水が農業用水利の溝に入って、殿迫や池田の方に流れてしまっている。

里見川に入るように至急改善策を検討すべき。

どう考えるか。

農林建設課長 ① 農林水産施設39カ所、公共施設74カ所、計113カ所が被災した。

② 今後浅口市と対応を検討したい。

また、里見川自体の水位を下げることを県に要望したい。

総務課長 ① 住家被害の罹災証明16件、住家以外の被災証明7件。

④ 全員協議会で最終的な説明を詳しくする考え。

被災者への義援金を一時的に町で預かっているとの観点から、町の歳入には含めない考え。

⑥ 分館長への情報伝達方法の見直し、改善を研究している。

⑦ 現在、複数社から具体的なシステムの概要などを聞いている。

また、財源確保を念頭に、県とも協議している。

⑧ 防災無線が導入できれば、研究したい。

⑨ 設置のタイミングや費用負担の問題など、もう少しすり合わせが必要。

⑩ 今後研究したい。

健康福祉課長 ② 本町へ寄せられた義援金は、社協を通じて日赤岡山県支部に送金した。

配分割合は、県の基準に倣っている。

③ 県から罹災証明の件数に基づいてきているため。

町長 ⑤ できるだけ早く、公平に被災者に届けなければならぬという観点で取り組んでいる。

議会を軽視するつもりはない。

農林建設課参事 ⑫ 早目に堰板を外す、ため池の水位を下げておく等を、強く呼びかけたい。

その他の質問

小・中学校における郷土の歴史、地理、産業、人に関する教育の充実について

Q 今回の豪雨災害を受けて、郷土の歴史や地理を学ぶことの重要性が改めて強く指摘されてきているが。

A 小3の社会科では「私たちの里庄町」という副読本を使って学習しているほか、各学年で実施。

Q 中学卒業までに郷土全般についてきちっと把握することが重要。

A そのための教材を作っては。

Q 今後工夫、検討したい。

和気あいあいと仲良く
活動しています

東平井子供会

東平井子供会は、幼稚園児から小学校六年生までを対象とし、現在三世帯五名で、少ない人数ではありますがありますが、みんな和気あいあいと仲良く活動しています。

春には、歓送迎会を兼ねた総会で、福山にバイキングを食べに行き、親睦を図りました。

夏休みには、里庄ハイツの子ども達と一緒にラジ体操を行いました。

冬には、クリスマス会を行い、今回はモダンしめ縄を作りました。「どんな色が良いかな?」「飾り付けはどうする?」などと、それぞれが友達と相談して、個性豊かなしめ縄が出来上がりました。その後はお菓子や飲み物で会話も弾み、楽しいひとときを過ごしました。

また、分館のサロン「笑楽」のイベントにも誘っていただき、五月のフリーマーケット、七月のそらめん流し、九月のミニ花火大会&バーベキューに参加し、地域の皆様と一緒に楽しみました。

地域の皆様には、高学年の小学生がいないため、毎日の安全パトロールや子ども一〇番の設置など、子ども達の安全に気を配っていただいています。資源回収や募金などにも積極的に協力していただいています。心より感謝申し上げます。

これからも地域活動を通して交流を図りながら、子ども達の成長を温かく見守ってくださいませう、よろしくお願い致します。



《第95号》
平成31年1月31日 発行
発行/岡山県 里庄町議会
〒719-0398
岡山県浅口郡里庄町
TEL(0865)64-7217
FAX(0865)64-3618
編集/議会広報編集委員会

E-mail:gikai@town.satoshio.lg.jp

●あしがき

明けましておめでとうございます。
近年町内でも猪の被害が増えています。猪は無病息災の象徴とも言われます。
今年一年みなさまにとって幸多い一年になるよう心よりお祈りいたします。
(佐藤)

編集委員
委員長:眞野博文 副委員長:仁科千鶴子 委員:小野光章 委員:佐藤耕三



写真提供:小野 利公(表紙)